



地域に根差した
おまつり・伝統行事の
維持と継承について

「ぼんでん」と「鹿島様行事」を
日本遺産に認定する
取り組みはできないか？

質問

「日本遺産」は文化庁の説明によると「地域に点在する有形・無形の文化財をパッケージ化し、我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定することによって地域の活性化を図るものだ。横手市の中では「ぼんでん」と「鹿島様行事」が全国的に他ではみられない、この地域特有の伝統行事として可能性があると、他自治体と協力して取り組めないか？

答弁

認定にあたってはストーリーの中核となる国指定文化財が含まれていることが必要で、現時点では認定要件を満たしていない。しかし、周辺自治体と連携して、伝統文化の新たな価値づけの方法について模索していく。

質問

たしかに「ぼんでん」も「鹿島様行事」も国指定ではない。だから無理だ、というのは消極的すぎないか？

答弁

秋田県の国指定文化財は17件で全国で一番多い。そういったものと連携すると対象にはなると思うので今後検討する。

質問

市長は歴史に造詣の深い方だからこそ提案している。一例を挙げれば、「ぼんでん」の成り立ちは一説には保呂羽山の山岳信仰からきているといわれている。そこには国指定文化財があるではないか。

また、「ジョヤサ」という文化も日本遺産に当てはまると思っている。ジョヤサはぼんでんだけでなく、県内の様々なおまつりでも使われている。例えば、「刈和野の大綱引き」と「土崎港の曳山」。これら全て国指定だ。そういったものと結び付けていく発想力、姿勢が大事だ。

答弁

様々な文化・歴史的なものを単品でみると広がりには限定されるが、深堀りをしていくと因果関係があったり、由来が一緒だったり広がりが出てくる。そこが歴史の面白さだ。ストーリーづくりが大事だと思つたので、市内の価値あるものをしっかりと調査し、知恵を借りながら検討していく。



旭岡山神社ぼんでん奉納

市指定無形民俗文化財の
積極的な取り組みについて

質問

おまつり・伝統行事が市の指定になると、それに関わる方々のモチベーションの維持、向上につながる。見渡してみると、市指定に値するものが多くある。指定に向けて積極的に取り組むべきだ。

答弁

調査を進め、個々の特色や独自性を尊重しつつも、多角的な視野から評価することで、新たな価値を見出ししていく。

質問

「多角的な視野」とは例えばどういうことか？

答弁

今は調査を積極的にやっていない。同じような伝統文化でいながら均衡がとれていないので、それぞれ歴史背景

景を調査し、積極的に指定していくという事だ。

質問

いまいわからない。なぜ、このような提案をしたかという、例えば先程の「日本遺産」も歴史まちづくり課が取り組んでいる「歴史まちづくり法」認定につながるからだ。

「歴史まちづくり法」認定に向けては増田の重伝建、後三年合戦史跡、保呂羽山関連をまとめて取り組んでいると思う。増田を例にとると、増田の価値のあるおまつりを市指定にすることが認定の要素につながる可能性があるし、それによって認定されれば、法律が適用され、支援が開始され、そのおまつりが維持、継承されることにつながる。事だと思つたか？

答弁

その通りだ。



厄神立て

おまつり・伝統行事を行う、もしくは参加する町内会・自治会、集落に対する支援について

質問

おまつりには大小かわからず、地域コミュニティの最小単位である町内会・自治会が関わっている。しかし、人

